茨城キリスト教学園高等学校同窓会報

ZION シオン

No. 43 2023

●ZIONコレクション― 12

「チアガールのユニフォーム」

野球応援のために結成されたチアガールが 1970 年代に使用したユニフォーム。
黄色地に、「S」の黒文字がダイナミックに配されている。

"聖書の言葉にともに向き合う"

◆2022年に就任した本校初の女性宗教部長

聖書　小田部（こたべ）実生子（みおこ）先生

「默祷」…静かに祈りの言葉が響く。

礼拝を司る小田部先生は聖書の専任教諭、宗教部長であり牧師である。それにスクールソーシャルワーカーとしての働きをするために、社会福祉士の資格も持っている。これまでに多くの学びの場で研鑽を積み、キリスト教の学校で教壇に立つ経験も豊富である。

●ご出身は?

大阪です。両親とも牧師で家が教会でした。高校は寮生活を体験したくて、雪国にある共学のキリスト教学校を選びました。

●寮生活はいかがでしたか?

生徒の半数が寮生活をしており、自由な校風で、自分で自由と責任を学ぶ経験ができる学校でした。そこで、信頼できる多くの友達に出会えて、とても楽しかったです。

高２聖書の授業

今年度からの新しい取り組み「賛美礼拝」

●大学は神学部ですね

関西学院大学神学部で宗教哲学を学び、卒業後カナダに語学留学したのですが、そこでストリートチルドレンと関わる機会がありました。その経験から、苦悩を抱える子どもを支える仕事をしたいと考えるようになりました。また非常勤で聖書を教える機会があり、この道を選ぶきっかけに。その後ドイツに語学留学してヨーロッパの文化や美術にもふれました。

帰国後同志社の大学院に行き、キリスト教学校と教会における宣教的課題として、苦悩を抱える青少年の深奥にある「自分は何のために生きているのか」、「自分の人生の価値がわからない」「生きる希望が見出せない」「なぜ生きていかなければならないのか」、というスピリチュアルな痛み、「スピリチュアルペイン」に対するスピリチャルケアや牧会カウンセリングを学びました。

●生徒の人格形成において重要な役割が?

思春期から青年期は、様々な発達課題と取り組む中、自分の存在価値という実存的な問題と向き合いながら、本当の自分とは一体何ものなのかということを模索していく。別の言い方をすれば、スピリチュアリティが芽生える大事な時です。この時に、覚醒されたスピリチュアリティとどう向き合うかということが、生徒達の人格形成において、とても重要なことであり、聖書の授業が重要な役割を担っていると感じ、神奈川で専任の聖書科教員になりました。

日々様々な生徒と向き合う中、カウンセリングだけではどうにもならない状況があり、スクールソーシャルワーカーの必要性を感じました。そこで、担任を持ちながら大変でしたが、通信の大学で学び、社会福祉士の資格を取りました。

●次のステップは?

思い切って学校を辞め、ソーシャルワーカーとしての実践力をつけたいと思い、あるキリスト教の学校の寮で2年間働きました。偏差値が高くても恵まれた家庭環境であっても、どこにでも様々な問題があり子供たちの悩みがありました

●そこから本校に来られたのですね。聖書の授業とは?

聖書の話が今生きる生徒達に何を伝えようとしているのか、現実の社会問題などを扱いながら、広い視野で物事を多面的に見ながら一緒に考える授業を心がけています。中高時代は実存的な問いに向き合う力を鍛え養っていくことが大切です。そこに関わり支えていくことに、キリスト教学校の存在意義があり大事な使命だと思っています。初めは静かな生徒達も、グループワークなどで自分に向き合うようになり、手応えのある反応を返してくれるようになりました。

●この学園の印象は?

広大で自然豊かなキャンパス、自由でのびのびした雰囲気がいいですね。先生方は真摯に熱心に指導しています。生徒達は多才で文武ともに活躍していますね。讃美礼拝では聖歌隊、コーラス部、ハンドベル部や吹奏楽部が素晴らしい演奏を披露してくれます。

2022 年 12 月高 2 修学旅行沖縄

●オフの過ごし方は?

美術鑑賞が好きなので、美術館にはよく足を運びます。それと自然豊かな公園を散策したりするのが好きです。

・・・

迷走する質問に丁寧に言葉を選びながら答えてくださった。先生の声は心地良い倍音の響きを持つアルト。その声は先生の言葉を伝える力強い武器になると感じた。凛とした佇まいのハンサムウーマンである。宗教の在り方を問われる今、多様な現場で鍛え養ってきた先生の指導力が期待される。

特別編
……英語のシオンを築いた先生の一人……
あの頃を語る

ブラウト先生ご家族
（1958 年）

宣教師のご家族たち（1958 年）
後列左がブラウト先生と奥さま

R.E. プラウト先生

アメリカ合衆国カリフォルニア州サクラメント在住

茨城キリスト教学園高等学校での日々の概要と楽しい思い出

手紙の和訳

私が、妻と５人の息子と茨城キリスト教学園高等学校に着任したのは、１９５８（昭和３３）年だった。私たちにとって、日本語の生活に入るのは全く新しい体験だった。日本語に不慣れで、笑えるようなたくさんの間違いをしたが、生徒たちはいつもとても優しかった。

当時の青木校長（編集部注：教頭）先生は、英語を大変上手に話し、新しい環境に適応し、働くのを手伝ってくれた。

聖書の中の「新約聖書」を教えた。通訳は、高等学校の斎藤由治先生で、英語で私の話の内容を確認し、間違いなく生徒に日本語で伝えてくれた。生徒の名前を呼んでもなかなか分かってもらえなかった。

チャペルで生徒たちが歌うのを聴くのはいつも楽しみだった。５人の息子は、音楽室下の「売店」でキャンディーやお煎餅を買うのを楽しんだ。彼らは生徒たちに英語で話し、生徒たちは日本語で話し、お互いに学び合った。生徒たちは、キャンパスにある我が家を訪れ、英語で話し、毎年開催されていた英語スピーチ・コンテストの練習をした。妻と私は、しばしばコンテストのジャッジを務めた。

聖書担当教員の長となり、聖書を教える以外に、毎日のクラス予定や、先生方の職務の調整を担当した。時には外国人の先生の誰かが欠勤し、２～３クラスを合併することもあった。その結果、場所を見つけるのに生徒や先生たちは大変な努力をしなければならず、混乱を引き起こした。

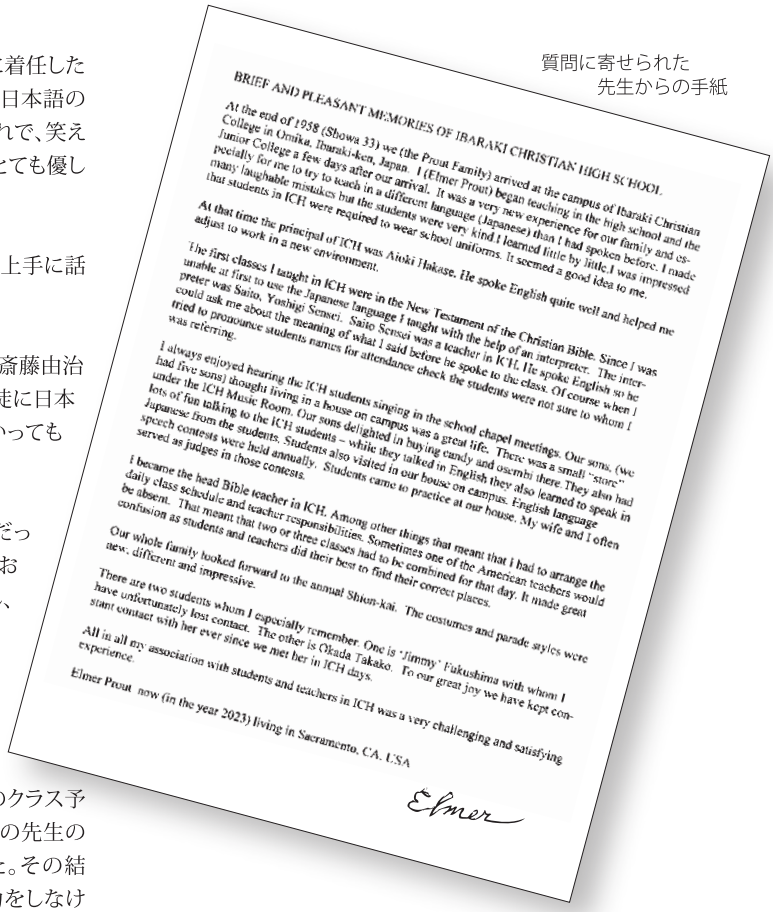
シオン祭は、衣装やパレードがとても新鮮で印象的だった。

特に２人の卒業生を今も憶えている。１人はジミー・福島（14回福島正義）で、残念ながら連絡は途絶えた。もう１人は岡田貴子（16回）で、私達家族は高校で出会って以来、常に連絡を取り合っていて、大きな喜びとなっている。

概して言えば、高校での生徒や先生方と私達との関係は、やりがいのある、満足のいく経験だった。

エルマー

質問に寄せられた
先生からの手紙



BRIEF AND PLEASANT MEMORIES OF IBARAKI CHRISTIAN HIGH SCHOOL

At the end of 1958 (Showa 33) we (the Prout Family) arrived at the campus of Ibaraki Christian College in Omiko, Ibaraki-ken, Japan. I (Elmer Prout) began teaching in the high school and the Junior College a few days after our arrival. It was a very new experience for our family and the specially for me to try to teach in a different language (Japanese) than I had spoken before. I made many laughable mistakes but the students were very kind.I learned little by little.I was impressed that students in ICH were required to wear school uniforms. It seemed a good idea to me.

At that time the principal of ICH was Aioki Hakase. He spoke English quite well and helped me adjust to work in a new environment.

The first classes I taught in ICH were in the New Testament of the Christian Bible. Since I was unable at first to use the Japanese language I taught with the help of an interpreter. The interpreter was Saito, Yoshiji Sensei. Saito Sensei was a teacher in ICH. He spoke to the class. Of course when I could ask me about the meaning of what I said before he spoke to the class. Students were not sure to whom I tried to pronounce students names for attendance check the students were not sure to whom I was referring.

I always enjoyed hearing the ICH students singing in the school chapel meetings. Our sons, (we had five sons) thought living in a house on campus was a great life. There was a small "store" under the ICH Music Room. Our sons delighted in buying candy and osembi there. They also had lots of fun talking to the ICH students – while they talked in English they also learned to speak in Japanese from the students. Students also visited in our house on campus. English language speech contests were held annually. Students came to practice at our house. My wife and I often served as judges in those contests.

I became the head Bible teacher in ICH. Among other things that meant that I had to arrange the daily class schedule and teacher responsibilities. Sometimes one of the American teachers would be absent. That meant that two or three classes had to be combined for that day. It made great confusion as students and teachers did their best to find their correct places.

Our whole family looked forward to the annual Shiun-kai. The costumes and parade styles were new, different and impressive.

There are two students whom I especially remember. One is 'Jimmy' Fukushima with whom I have unfortunately lost contact. The other is Okada Takako. To our great joy we have kept constant contact with her ever since we met her in ICH days.

All in all my association with students and teachers in ICH was a very challenging and satisfying experience.

Elmer Prout now (in the year 2023) living in Sacramento, CA. USA

Elmer

「ZION」の発行に向けて、名簿に見入っていたとき、ふと外国人の先生に目が行き、殆どの方が亡くなられているのに気付きました。しかし幸いにも、早くから高等学校に関わった先生の名前を見つけました。早速電話で「英語のシオン」と言われる基礎を築いた一人、プラウト先生の１９５８（昭和３３）年頃からの、高校での体験、出来事、思い出などについて述べていただきたい旨お話をし、快諾を得ました。全訳文では「英語のシオン」の卒業生に失礼、ということで要約しました。高等学校の草創の頃を知っていただければ幸いです。

ブキャナン理枝子さん（12回生）も、奥様のジニーバさんに、英語劇やクラブ、スピーチなどの指導を受けて、とても充実した高校生活が送れ感謝していると語っていました。

（岡田　記）

L I F E

矢田 勉
（22回生）
水戸市在住

生涯金融マン

「高校時代は人生の黄金期。なんの責任もなく青春を謳歌できた」と振り返る。

野球部でケガをし1年休学したが、生徒会副会長や応援団の校旗持ちで活躍。明治学院大学法学部へ進んだ。卒業後は常陽銀行へ。竜ケ崎支店で窓口業務を経験。末広町支店では融資業務をし、バブル時代は東京支店に勤務していた。バブル崩壊後は本部（水戸）で4つの部門を経験した後、営業本部付として新しく法人金融部を作った。植田支店、池袋支店の後、再び本部に戻り、銀行の最後の仕事は大阪支店。週末に夫婦で九州や京都に行くなど、一番楽しい時代だった。

2006年、一般企業へ役員として出向後、茨城県銀行協会へ。茨城県法人会連合会と水戸法人会で役員を務め、昨年から参与として週3日の勤務となった。今では「相棒」「科捜研の女」等サスペンスドラマを観るのが楽しみで、小中学生3人の孫たちの成長を見守っている。21年度からは、同窓会の会計監査を担っている。

「洋燈（ランプ）の家」と詩吟と

趣味として、久慈町で始めたお店「洋燈の家」が、もう30年になる。若い頃にはアンティークの家具やドレスを東京まで仕入れに行ったりしたが、今でも色々と趣向を凝らして、楽しく続けている。また、「詩吟」の稽古にも励み、師範の免許も取って続けている。そのおかげで張りのある若々しい声だ。何にでも意欲的。「絵手紙」も24人の仲間と共に楽しんでいる。人生を謳歌しているのが素晴しい。

母校の雰囲気が大好きで、2人のお孫さんは聖児幼稚園を出て、今では高校生、大学生として学園に通っている。また、ご主人も大学の公開講座に出席したり、ファミリーで学園を誇りとし、こよなく愛している。

独身時代にお裁縫を習って、学園卒業後、制服をリフォームしてしまった事もある。

今年の春には、きれいな古布を使って、おひな様を沢山作り、吊り雛をお店に華やかに飾ろうと忙しく張り切っている。

田所 和子
（旧姓神田・12回生）
日立市在住

花久 禮子
（旧姓小滝・2回生）
日立市在住

最高だった高校生活

花久さんが、本校に入学することになった訳は、学校制度の改定によるものだった。中学として日立第二高等学校を卒業した時、大甕近くに住むお姉さんから、変わった学校があるから来てみては、と勧められ、2回生として入学した。

当時は、ローヤー校長先生、宇野教頭先生だった。男女の別なく色々なことが自由にできて楽しかった。外国の人々と仲良くなれる機会は他にはなく、憶えている限り、ローヤー、ドイル、キャノンの各先生を始め良い先生方ばかりだった。たくさん学び、遊び、優しく、とてもかわいがられた。

当時は運動部がなくて、日立第二高等学校の生天目先生のご協力でバレーボール部が創設された。また、制服が無く、私服だった。

卒業後に、同じクラスだった宇野啓さんに誘われて、海東君たちとアメリカ旅行を楽しんだ。アメリカ在住の友人も加わり、とても良い思い出となっている。

シオンは楽しい高校、場所で、最高に良かった、幸せだった、と目を細めて語られた。

現在は、100歳近い方々と集い、勉強やカラオケ等を体験しつつ、ご主人とお二人で元気に過ごしている。

●いま輝いてます●

Bright

海を渡り夢をかなえた男

◆人気居酒屋「𠮷楽」

オーナーシェフ
斎藤 大樹（49回生） アメリカ在住

「お店を持ちたい」という夢をアメリカ・バークリーの地で叶えた斎藤大樹さん。居酒屋「𠮷楽」のオーナーシェフだ。

高校を卒業後、横浜のホテルでフランス料理を10年ほど学んだ斎藤さんは、「自分のお店を持ちたい」、「本場の料理を喜んでもらうためには」と考えた末、世界一の経済大国アメリカにいくことを決心した。

当時のアメリカは中華系人による和食のお店が多く、日本人の経営する店が殆ど無い状況だった。そこで自分が日本の味、そしてきめ細やかなサービスを提供しようと考えた。

言葉の壁もあり、先ずは日本人経営の焼き鳥屋で働き、休みの日は鮨店を手伝い、魚について勉強するために市場へも通う修行の日々だった。

開業は2011年、30歳の時。

渡米する前の専門はフランス料理だった。しかし、住んでいるバークリーは学生が多い街なので、赤ちょうちんが似合うはずという発想がひらめいた。妻と他にスタッフ2名で40席ほどのお店を切り盛りし、「味やサービスが素晴らしい」と好評を得て、とても励みになった。

今は開店と同時に満員となる繁盛店を15人で切り盛りしている。常連客も多く付いてアットホームな雰囲気が人気だ。

ご家族で

お店を出すまでは当然苦労が多く、心が折れそうになった。その時一冊の本「ザ・シークレット」に出会った。それには引き寄せの法則のことが書かれており、自分が強く思えば物事は叶うとのこと。この本によって乗り越えることが出来たそうだ。正に『Ａｓｋ！求めよさらば与えられん』である。この本は今でも繰り返し読み続けている。正にバイブルだ。

現在お店を構えて11年目、店舗を増やしてオーナーに専念することも考えたが、やはり自らキッチンに立ち料理でお客様をもてなし、日々お客様と対面することで刺激され新しいことを感じ挑戦してみる。そういった日々が一番楽しいという。

幅広く様々な客層がいるため、特にこれだ！という料理は思いつかないが、「日本から届く新鮮な海鮮、これを料理することが最高」らしい。本マグロも40キログラム毎週仕入れるほどの熱の入れよう。これなら顧客の舌を掴める。

コロナ禍によるパンデミックの際に

M Y

推しの一言で先生に

特に目標も無く高校へ通学して、授業が終わると部活をしていなかったので学習塾に行くかそのまま帰宅する。特に何かやりたいという将来像も描けていない悶々とした日々を過ごしていたが、ある日のこと校長の岩間英夫先生が将来就きたい仕事について色々と相談に乗ってくれ、教師の道を勧めてくれた。

大学の教育学部に進学して教員免許も取得したが、卒業後は一般企業に就職し会社員として過ごした。しかし、校長先生が強く推してくれた教師という道があきらめきれずに、3年目に入る前に転職して小学校の教師となった。新たな希望、そして不安も当然あったが、そんなものを押しのけて、児童たちは「新せんせ〜い!」と慕ってくれる。今ではとても充実した日々を過ごしている。

また、以前からギターをたしなんでいて地元の音楽仲間とバンドを組んで楽しんでいたが、コロナ禍が続きバンドはやめてしまった。今ではソロで尊敬する押尾コータローさん、龍蔵さんの楽曲を楽しんでいる。教師という仕事の他に音楽趣味があると、生活のON/OFFが心身の切替えに繋がり、児童への教えも自身も向上する。あの時の校長先生のように推しができる先生になれるのはもうすぐだ。

中原 新（しん）
（52回生）
北茨城市在住

玉地 裕平
（42回生）
ひたちなか市在住

有意義だった高校生活

今でも心に強く残っているのは、部活と生徒会の思い出。ハンドベルの音色を初めて聞いて「やってみたい」と思い、コーラス部に入部。また、中学時代からホルンを吹いていたので、ブラスバンド部にも入り、2年生の時には生徒会長を務め、学園祭では、当時テレビで話題の「ミスターレディーコンテスト」を企画。ミスター（男子）を女子が綺麗にすることで盛り上がり、各クラスが一丸となった。この学園祭では、コーラス部とブラスバンド部の発表が午前と午後に各2回あり、間には生徒会の企画もあって準備のために一日中学内を走り回っていて、他のクラスの催しを見ることが出来なかった。

他には、生徒会で雲仙・普賢岳噴火被害の募金活動を。コーラス部では全国高等学校総合文化祭に2度参加（岡山、山梨）。クリスマス礼拝は聖歌隊として、ブラスバンド部ではアレンジ曲で中庭コンサートをしたりと、部活、生徒会で思い出とチャレンジの多い3年間だった。

すべての出会いに感謝

現在、星薬科大学で心理学の准教授をしている。この道に進むきっかけになったのは、高校で生物を教えて戴いた木村弘子先生の言葉だった。生物の課題でローレンツの“ソロモンの指輪”を読んだ。生まれたばかりの雛が親鳥の後をついて歩く「刷り込み」のメカニズムを解明した研究が面白くて、こんな研究がしてみたいと木村先生に話した。当時生物学では遺伝子研究が盛んになってきていて、そうしたマクロな研究はむしろ心理学でやっていると先生は教えてくれた。それで心理学のことを調べることになり、その中で特に面白そうだった『脳とこころ』の関係を研究する『生理心理学』の道に進むことになった。学力が追いつかず、後に師となる岩崎庸男先生のいる筑波大をあきらめようかと迷っていた時、「やりたいことをやりなさい、チャレンジしなさい」と背中を押してくれたのはクラス担任の渡部和俊先生だった。ほかにも、たくさんの本を読むことを教えてくれた岩間英夫先生や、ワンダーフォーゲル部の顧問で「山は逃げない」と生き方のヒントをくれた井坂光宏先生など、多くの素晴らしい先生方に出会えた。すべての出会いに感謝している。

川崎 勝義
（32回生）
守谷市在住

森 颯大（そうた）
（72回生）
埼玉県在住

趣味はランニング

時間がある時は約8km走っている。きっかけは高校2年のコロナ自粛中に始めたダイエットと勉強のリフレッシュ。三日坊主が3年間も継続出来ている事に自分でも驚いている。学力と同じように体力も付き、伸びしろを感じながら楽しく走っている。

現在、埼玉大学経済学部に在籍。経営、法、国際の学問が幅広く学べることが志望動機。

インターンを積極的に促してくれたり、社会に出てからのマナー等を実践的に学べるゼミへの所属が決まり、就職を早いうちから視野に入れて行動していきたい。

高校生活の思い出は、ワンダーフォーゲル部所属の3年生の夏、インターハイに出場。その時の練習、訓練、合宿で体力面や知識面で様々な経験を積めたこと。

学生という時間のある内に、友達と海外へ行ったり、国内を一人旅したり、アジアや南米の遺跡、欧州の城なども見学したい。その為にバイトをしている。

「かっこいい！」と…

現在、東京都の区役所で建築職職員として働いて7年目となる。公共建築物の新築、改修工事に伴う設計、精算、工事監督を主な業務とする「営業課」で3年。防災街づくりとしての木造住宅密集地域改善、道路整備などそれらに関わる補助金申請業務を行う「住まい街づくり課」で4年間仕事をしている。

大学の授業で隈研吾氏設計の浅草文化観光センターを一目見た時「かっこいい！」と感銘を受けた。このように国内外の人々に使われる公共の建物の設計に関わりたいと思ったことが今に繋がっている。

高校生活の思い出は修学旅行やクラスマッチ。夜中まで旅行の事、好きな人の事を語り合った友達が信頼できる友達だった。クラスマッチではフットサルに出場。やさしく教えてくれた仲間のおかげで、今では社会人フットサルに所属している。

中高の6年間では、楽しい思い出や失敗などいろいろ経験。その経験が今の同僚との付き合い方、仕事での失敗も乗り越えられる精神力の源になっている。

青天目 勇（なばため）
（62回生）
東京都在住

陶芸の技もプロ並み

店の前でスタッフと

は、テイクアウトに切り替えてスタッフを守り、市場で売れ残ってしまう食材を買い求めては世話になっている仲間を守った。また、このような状況だからこそチップをはずんでくれた常連客も沢山いて、そのチップは全て頑張ってくれたスタッフに回した。

今後は、日本で取得した利き酒師の免許を生かし、得意の陶芸にも磨きをかけて、この二刀流で、更なる日本の食(飾)文化、そして、おもてなしを広めていくことでしょう。

TOPICS

チアガール今昔物語

1976年頃使われていたチアガールのユニフォームが、同窓会に届けられました。29回生のKさんが2年生の時に、新しい衣装に変わった際（使わなくなったので）頂いたもので、胸元に「S」の文字が付いた黄色いユニフォームです。

当時の応援団は、野球応援のために4月から7月までの間だけ結成された「応援実行委員会」で、男子応援団と女子のチアガール、そして吹奏楽部が、放課後キャンパスで練習をしていました。

この頃の野球部は、たとえ初戦で敗退しても悔しくて涙を流し…、その姿を「決勝で負けたみたいだね」と、先生にからかわれたことを今でも覚えているそうです。毎日練習をして真っ黒になったよき青春の一頁でした。

このチアガールの衣装の原型は、20回生のMさんが、当時トレンドだったアメリカンファッションの雑誌を参考にデザイン画を描き、チアメンバーで生地を買ってきて、それぞれのお母さんにお願いをして作ってもらったとか。その勇気ある行動は、実は学校の許可も取らず、職員会議も通さず、勝手連的にやってしまったとか…なんとも素晴しい勇気です。

Mさんの卒業アルバムには、女子応援団の写真があります。応援は男子の役目だった当時、「応援したい！」と名乗りを上げた女子パワーの凄さを感じました。

20回生のAさんの時代には、他校に女子応援団がほとんど無かったらしく、ピンクのユニフォーム姿のシオン女子は注目の的だったのでしょうね。

最初のユニフォームは、ピンクに白いSの文字で、いつの頃から黄色になったかは不明です。

また、35回生のTさんは、放課後に先輩や後輩と一緒に練習をして、野球の試合当日は、応援団の男子たちとバスに乗り合わせて球場へ。この曲で踊れば必ず点が入る！というジンクスを信じて、チア皆で祈るように心をひとつにして躍っていました。一生忘れることのない素敵な経験でしたね。

現在のチアは、地元Bリーグバスケット「茨城ロボッツ公式戦」のハーフタイムショーなどに出演する程の活躍ぶりです。応援だけでなく、「チアリーディング」という「競技」にご注目を。動きやフォーメーションなど美しさを競う高度なスポーツです。後輩たちの弾ける笑顔や躍動感溢れるパフォーマンスも応援したいですね。

・・・

ところで、ユニフォームの「S」の文字は、「SHION」から引用したものと思われますが、現在は、「シオン」ではなく、「キリスト」とか「茨キリ」とか呼ばれています。

校歌も「シオンの四季」で、第一応援歌でした。シオンという呼び名の方が耳に馴染むという方も多いかも知れませんね。

・・・

誰かを一生懸命応援する、学校のために友人のために。そして、その応援が力になり、選手は頑張れるのです。素晴しいことです。

卒業してそれぞれに毎日違う時間を過ごしています。でも、同窓会報「ZION」がお手元に届いた時などは、高校時代の記憶が蘇りませんか？また、母校の学生が部活などで頑張っている姿を目にすると、嬉しく、活躍する姿に誇りを感じます。

これからも、母校の発展を心から応援していきましょう。

届けられたユニフォーム
29 回生（1976 年）の頃
黄色地に黒の S 文字

20 回生（1969 年）頃の女子
応援団、ピンク色に白 S 字

チアガールと男子応援団

51 回生（2000 年）の頃
青地に白のイニシャル

現在はイニシャルと青の
ストライプとの組合せ

●ありがとうございました！

・安嶋龍孝先生が勇退されました

●ご逝去されました

・相澤 潤二先生・小笠原 昌子先生
・繁國 良明先生・荻原 淑子先生
・小岩 豊彦先生

開催しました

■10 回生

’22 年 4 月 12 日（火）、80 歳を記念して「学園視察研修」を行なった。8 名が正門に集合し、4 号館新校舎内を視察後、記念館内でサザコーヒーを飲み休息。その後、大みかクラブの日立オリジンパークを視察し、カニ・エビ料理の「赤津」で親睦を深めた。

■22 回 8 組

’23 年 3 月 18 日（土）、年齢などで開催が困難となりうるため、今回を区切りとして 70 歳を目前に開催。水戸市「割烹いずみ」に男子 8 名、女子 4 名が集い、久しぶりに楽しいひとときを過ごした。

● 2022 年度同窓会への寄付者一覧 (68 件)
(合計金額 361,000 円) ご好意ありがとうございました

5　瀬木　昇
5　蔀　幸男
6　横尾信男
8　安藤佳世子
8　加藤志津江
9　長谷川君江
9　今村純一
10　中村次男
10　佐藤ヒサ子
10　杉本惠子
10　清野英美子
10　幡谷靖子
11　戸張紀子
11　大谷俊惠
12　倉持征敏
13　近沢博子
14　丹羽智恵
14　岡田敏子
15　菊池　潔
15　赤井美智子
16　隆　珠美
17　若松守正
17　塩川文雄
18　郡司任孝
18　寺門千津子
20　村田　亮
20　大内準子
20　藤原智子
20　沼田敏江
20　菅原卓子
20　松田玲子
21　鈴木和子
22　長谷川久美子
22　秋山三千子
23　磯嶋則子
23　弓野孝子
23　佐藤芳子
25　石田進一郎
26　依田明子
27　前田たかえ
28　富岡明美
28　筒井貴美枝
28　永井五鈴
30　大久保文代
30　金澤邦博
31　川嶋広行
33　川上光彦
33　百瀬弘美
34　石井由香
34　山﨑貴人
35　野寺聰子
36　平野修一
36　鈴木直子
37　礒﨑幹子
38　村山めぐみ
38　甲髙恵美子
39　中村美織
41　黒澤喜美恵
45　西村真樹
46　井上直行
51　鈴木仁美
57　川嶋啓太
64　川端春希
71　森下実紀
72　川﨑康裕
旧職員　菅原信子
匿名 1 名
旧職員 7　原田きよ

第 74 回シオン祭「対・面・開・催」です！

それは3年ぶりの開催であった。withコロナの中、天候にも恵まれ、準備する学生たちは瞳をキラキラ輝かせていた。先生方やOBスタッフも生き生きとしている。いよいよAM10:00開催宣言。

中学、高校のイベントや模擬店の開催は規制されたが、3年生にとっては最初で最後の文化祭。思い出深く大切な一日となった。

同窓会では、SAZA Coffeeの飲食は出来なかったが、挽き豆販売は好評完売。恒例のフリマや笠間焼の販売の他、今回は新たに古本市も開催。古本は某氏の蔵書の提供で解説付き。予想以上の売れ行きであった。収益金67,855円から50,000円を高校に寄付した。

大好評！大成功！をおさめ、上機嫌のスタッフたち

東京支部から全国の会員の皆様へ！

「東京湾シンフォニークルーズ」参加者募集！

●日時＝10 月14 日（土）11 時 20 分集合
　出港：11 時 50 分→ 帰港：14 時 00 分（130 分）
●集合場所＝日の出ふ頭　●参加費＝13,000 円（ランチ・ドリンク付）
●連絡先＝佐川：080-5424-3742 ・名越：090-3136-1817
●申込〆切＝８月 10 日（木）

全国高等学校総合体育大会 登山競技大会に出場

■ワンダーフォーゲル部女子

2022 年 8 月 5 日～ 9 日、香川県で開催された「躍動の青い力 四国インターハイ」に県代表で出場。チームは 2 年生 2 名、3 年生 2 名。

3 泊 4 日で一人 10 kg 以上のザックを背負い 3 つの山に登山。山中に隠れている審査員が、呼吸の乱れや苦しそうな表情、隊列からの遅れ具合などから体力を、また天気図の描き方や読図、行程計画書、装備などをチェックする。100 点満点で競う採点競技。結果は 36 位だった。

部員は仲が良く、23 年度の大会に向けて風神山で練習に励んでいる。

一方、ワンダーフォーゲル部男子は 2021 年に福井県で開催された北信越インターハイに県代表で出場している。

「英語プレゼンテーションフォーラム県大会」で県教育委員会教育長賞を受賞

■英語部

英語を通して課題を発見、解決し、考えや気持ちを積極的に発信する力を高めようと企画された大会が、2022 年 8 月 30 日、つくば国際会議場で開かれ、2 年生女子 5 名がパートを分担して発表した。

本校を飛行場に例え、”ICH : Your Terminal To The Global World” と題して学校紹介をした。駅から本校までの登校動画やクリスマス礼拝、学園祭、ヴォス校長、留学生などの映像を使用して、ユニークさや魅力をアピール。受賞した。

全国高校駅伝競技大会に出場

■陸上競技部 (女子)

2022 年 12 月 2 5 日、京都市・たけびしスタジアム京都で行われた女子第 34 回全国高校駅伝大会に、3 年連続 25 回目の出場を果たした女子陸上部は、昨年の 25 位から順位を上げ、21 位の結果をおさめた。次回大会でのさらなる飛躍を期待したい。

合唱コンクールで受賞

■コーラス部

2022 年 8 月 21 日に行われた、第 77 回県合唱コンクールにおいて、本校コーラス部が高校 A の部で最優秀賞の「全日本理事長賞」を受賞。また、本校中学校も同声の部で「金賞」となり、新潟市で行われた関東合唱コンクールに出場した。

9 月 17 日に行われた関東大会では、「銅賞」だった。中学校は「金賞」を受賞し、10 月 30 日に青森市で行われた全国大会に初出場し、「金賞」を受賞した。本校中高ともに輝かしい実績となった。

編・集・雑・感

ようやくホームカミングデイを開催することが出来るようになりました。高校の学校行事も通常通り行われているようです。コロナ禍のなか新校舎も竣工し、学園の風景も新しくなりました。広報誌も新人編集スタッフが活躍しています。ホームカミングデイお待ちしています。（A）

● 編集スタッフ
ブキャナン理枝子・佐藤寿子・岡田貴子・手塚正子
荒川眞理子・原田順子・松田玲子・高野雅之
池ノ辺浩・安達和子・芳賀友博・黒木亜希子

●デザイン：M-at

★本誌編集スタッフ募集！

「ZION」発行への寄付のお願い

20,000 人以上の卒業生への「ZION」発行と送料で 200 万円以上が必要です。毎年資金が不足しております。ご協力をお願い致します。
（「ZION」に同封の振込用紙をご使用下さい）

新"校舎見に来ませんか

2023 年度

ホームカミング・デイ

「新4号館」で開催します！

●日時＝2023 年 6 月 3 日（土）13：30 ～
●場所＝4 号館ホール：総会
学園記念館：懇親会

《・空くじ無しの「大抽選会」
・「コーヒーとクッキー」で、和みのひと時を！》

ゲスト演奏 「高校ハンドベル部」の ハーモニーをお楽しみ下さい。

天心が想い 大観が描いた五浦
五浦観光ホテル 別館 大観荘
常務取締役 女 将 村田和華子（35 回卒）
北茨城市大津町722 TEL 0293-46-1111(代)
http://www.izura.net/

フランス菓子 ルブラン
水戸市千波町370 TEL.029-241-1991
http://www.leblanc.co.jp

勝部蘭社労士事務所
Office 〒310-0852 水戸市笠原町 1040-1
Phone 090-7940-6262
E-mail r.katsube@hinode916.com
HP

NEXT・カワシマ
川島プロパン・住まいるカワシマ・らぼーるカワシマ
住まいのコンビニ
らぼくらぶ
http://puron.co.jp
本社:茨城県ひたちなか市津田2941 TEL:029-273-8751
日立:日立市川尻町5丁目4-15 TEL:0294-42-7111

ガス機器修理 水まわり修理 電気のご契約
ガスも電気もリフォームも！暮らしの事はお任せください！
砂川二郎（38 回卒）
TOKYO GAS GROUP
Enesta エネスタ多賀
エネスタ多賀 TEL 0294-36-2520

ishigurogumi
鳶工事一式
石黒組株式会社
〒316-0014
茨城県日立市東金沢町 2-1-14
TEL:0294-36-6800
FAX:0294-35-1123
https:www.ishigurogumi.com

いいものを創りたい。
㈱ 笠 間 印 刷 所
水 戸 市 本 町 2-1-26
TEL 029-221-3048
E-mail:kasama@proof.ocn.ne. jp

建築設計・監理・既存建物調査
磯山設計事務所
一級建築士 磯山 治（18 回卒）
〒309-1736 笠間市八雲 1 丁目 5-16
TEL0296-77-0476 FAX0296-78-2365

Anchor Staff アンカースタッフ
●人材派遣業務 ●プロモーション業務
株式会社アンカースタッフ
取締役 黒木 亜希子（37回卒）
水戸市袴塚3丁目3-52 アンカースタッフビル
Tel.029-350-1551 Fax.029-350-1552

Garden & Exterior
House & Garden Landscape Planner
ジャルダンショールーム
水戸市泉町 1-6-1 京成百貨店パサージュ内
Tel 029-302-5133

鵜のまち 日立の うかるくんともうかるくん
茨城県日立市 非公認キャラクター
金運上昇！ もうかるくん
必勝合格！ うかるくん
https://www.facebook.com/Ukarukun
Email ukarukun@hkp.co.jp

HOME ROASTED SAZA COFFEE SINCE 1969
鈴木誉志男(10 回卒)・鈴木太郎(40 回卒)
本社:ひたちなか市共栄町8−18
TEL 029-274-1151
www.saza.co.jp

★広告掲載（有料）希望される方ご一報ください

茨城キリスト教学園高等学校同窓会報
ZION（シオン） No. 43

●発行日＝2023 年 5 月 1 日
●発行人＝川上光彦
●発行所＝茨城キリスト教学園高等学校同窓会
〒319-1295 茨城県日立市大みか町 6-11-1 TEL.0294-52-3215（代） FAX.0294-53-9271
https://www.icc.ac.jp/zion/ E-mail:ih-dousou@icc.ac.jp